

令和7年度 校内研究計画

(1) 研究テーマ【昨年度から継続】

「自他を大切にし、互いの心と学びを支え合う生徒の育成」
～ピア・サポート活動を通した、人とつながる
喜びを感じられる、優しさあふれる学校づくり～

(2) 主題設定の理由

唐津市の北部に位置する海青中学校区は、旧鎮西町と旧呼子町の2つの町からなる校区であり、打上小学校、名護屋小学校、呼子小学校の3校と海青中学校の1校がある。海青中学校は、旧打上中学校、旧名護屋中学校、旧呼子中学校の三校が統合して平成25年4月に開校した。各小学校の児童は、幼少のころから一緒に生活しているため、互いに顔見知りであり、人間関係が固定化している傾向がある。また、中学校に進学して新しい人間関係をつくることを苦手としており、3小学校卒業の生徒同士の融和がうまく図られないために、数年前までは、友人を傷つける言葉遣いや発言をする生徒、配慮を要する生徒が多くいた。現在は少しずつ落ち着きを取り戻しつつあるが、依然として生徒間のトラブルはあり、自己肯定感が低い生徒も多い。

学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互の人間関係づくりを最重要課題として取組を進めてきており、学校教育活動全般で生徒の良いところを見逃さず、意識的に承認、称賛する機会を作ることにより、生徒が自分の良さや可能性を認識することにつながっている。その一方で、家庭環境や学習、友人関係など様々な要因で不安を抱えている生徒や特別な教育的支援を必要とする生徒が増えてきている実感が職員の共通認識である。そのことに起因する自己肯定感の低さが、友だちへの心ない言動、人間関係でのトラブルやルールを守ることができないなど、学校で起こる問題行動の背景にあるのではないかととらえている。以上のことから、本校の課題としてこれまで取り組んできた人権教育に基盤としながら、引き続き人権意識を高めるとともに、生徒の自己肯定感を高め、生徒同士の融和が図られるような取組を継続・発展させていく必要がある。

そこでこれまでの研究や取組を生かし、研究テーマとして「自他を大切にし、互いの心と学びを支え合う生徒の育成」～ピア・サポート活動を通した、人とつながる喜びを感じられる、優しさあふれる学校づくり～を掲げた。

これまでの海青中学校の様子を振り返ってみると、生徒の自主性を重んじ、行事の運営や生徒主体の活動を進んで設ける場面が多くみられるようになった。その結果、自分たちが学校を作っているんだという誇りと使命感が生まれ、上級生が下級生の手助けをする構図が随所に生まれ、優しい雰囲気広がっていった。一方、生徒間でのトラブルは依然として散発的だが発生しており、正しい距離感や声のかけ方、困っている仲間を見つけたときには、まず心配するという心の働きを身に付けさせたり、話の聞き方や困っている人への声のかけ方などの具体的な手法を身につけさせたりすれば、海青中学校の良い部分や魅力がさらに発展し、生徒たちが様々な場面で互いを支えあうという風土が培われ、生徒にとって価値ある「生きる力」を身に付けさせられると考え、このテーマを設定した。

(3) 研究の目標

ピア・サポートの理念が通底した授業や学校行事、リーダーを育てるような機会を通して、自他を大切に認め合い、互いを支え合う姿勢を生徒が備えることで、生徒が自己の存在感や有用感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送るようになることを目指す。

(4) 研究の仮説

人とつながる喜びを感じられる、優しさあふれる学校づくりを目指して、人と関わる技術を学んだり、その技術を活用してコミュニケーションを図ったりする機会を学校生活の様々な場面や授業で設ければ、生徒の自己肯定感が高まり、自他を大切にしてお互いに優しく接する態度が養われ、互いの心と学びを支え合う生徒が育つであろう。

(5) 学校教育におけるピア・サポート活動および各部の研究内容について

ピア・サポート活動（以下P・S）とは、仲間と相互に支え合って課題を解決する活動を通して、他者とつながることで安心・つながり・思いやりの重要性を当事者に実感させる取り組みである。

学校教育では、教師の指導・援助の下に子どもたちが互いに思いやり、助け合い、支え合う人間関係を育むために行う学習活動を指す。

具体的な取り組みとしては大きく3種類あり、以下列挙する。

①授業中での取り組み

共同学習や学習の方法、単元や座席配置など、P・Sの要素を持った授業をデザインする。

②特別活動等での取り組み

P・Sの重要な要素である、「上級生⇒下級生」の縦割りの活動要素を既存の活動に取り入れ改善する。

③生徒への取り組み

生徒同士の声掛け、悩み相談など。機能的な声掛けとすべく各種リーダー、希望者を中心に研修を行い、P・Sの実践者（ピア・サポーター）を育てることが重要。

“ピア(Peer)”とは

「仲間」の意味。同学年だけでなく、同じ大学に所属する学生や同僚も“ピア”

“サポート(Support)”とは

「支援」の意味。「救援」(Rescue)とはちがう

“ピア・サポート”とは

仲間や同輩が相互に支え合い課題解決する活動

安心・つながり・絆を生みだし、思いやりのある学校風土を創造する

- 誰もが、成長する力を持っている。
- 誰もが、自分で解決していく力を持っている。
- 人は、実際に人を支援する中で成長する。

そして

- 誰もが他者をサポートできる存在であり、サポートを受ける存在である。

【定義】

- 学生たちの対人関係能力や自己表現能力等、社会に生きる力がきわめて不足している現状を改善するための学校教育活動の一環として、
- 教職員の指導・援助のもとに、
- 学生たち相互の人間関係を豊かにするための学習の場を各学校の実態に応じて設定し、
- そこで得た知識やスキル(技術)をもとに、仲間を思いやり、支える実践活動を、ピア・サポートと呼ぶ。

日本ピア・サポート学会 HP より

【仲間づくり研究部】

- ・職員および生徒の部落問題への理解を深め、部落問題学習を充実させる。
- ・人権尊重の視点に立った学校づくりを行い、学校、家庭、地域が連携して人権教育を推進する。
- ・配慮を要する生徒の支援体制の強化を図る。
- ・互いを認め、学び合い、支え合い、高め合おうとする関係性を構築する取り組みを推進する。
- ・P・Sの理念のもと、学校行事や特別活動など、各生徒が様々な人間関係を構築し、その中で自己肯定感を高め、集団への所属意識を持てるような特別活動を展開する。

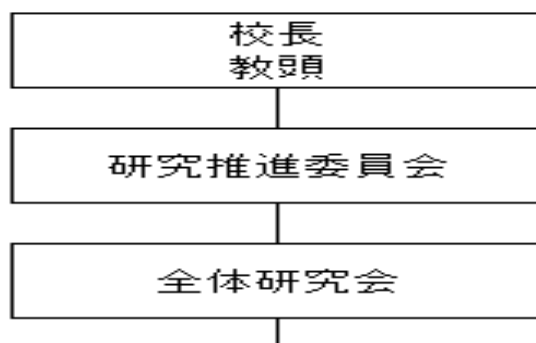
【学習活動研究部】

- ・「UD」の視点を取り入れた学習環境を提案し、誰もが安心して学ぶことができる環境を整える。
- ・コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、活用事例や活用案などを提供する研修機会の充実を図るとともに、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る。
- ・P・Sの理念のもと、「わからないから教えてほしい」と遠慮なく言い合える人間関係を構築し、すべての生徒が「分かる」を実感できるような授業の在り方やそのための手立てを究明する。
- ・その他、海青中の現状に鑑みた際に、学力向上や既存の取り組みの発展に寄与する手立てを講じる。

【コミュニケーション研究部】

- ・英語科を中心に、生徒同士が主体的に関わり、コミュニケーション力を高めることのできる手立てを提案、実践する。
- ・英語科以外の教科についても、教科主任の意見を踏まえつつ、生徒のコミュニケーション力を高める手立てを講じる。
- ・P Sの理念のもと、話したり聞いたりするときに必要な技術や、互いの心を支えあうために必要な声掛けのスキルを生徒が習得することのできるような機会を設定する。

(6) 研究体制



仲間づくり研究部	学習活動研究部	コミュニケーション研究部
◎高良 悠路（社１） ・南 萌菜（社２） ・宮原 照幸（体２） ・甲斐信太郎（音３） ・前田 貴也（社３） ・中尾 雄一（美３）	◎大鶴 翔（理１） ・岩本幸一郎（数１） ・弓山あゆみ（家２） ・井邊伸一郎（数２） ・藤田 和久（数３） ・南里 英治（技３） ・坂下 萌花（体３）	◎出島佐和子（英３） ・吉村 晶子（英１） ・中島由香里（体１） ・古川 春奈（英２） ・脇山 大樹（国２） ・三浦 早紀（保）
◎ピア・サポート活動の要素を取り入れた特別活動、生徒会活動の工夫と推進 ○人権教育の推進・部落問題学習の充実 ○仲間づくりと人間関係構築の機会確保	◎ピア・サポート活動の要素を取り入れた授業スタイルや教室環境の工夫と改善 ○「UD」や「学び合い」を意識した授業の在り方の提案 ○ICT 機器の利活用の推進 ○学力向上に関する工夫	◎ピア・サポート活動の充実のために、具体的なコミュニケーション方法を身につけさせるための工夫手立て ○コミュニケーション活動の充実（英語科を中心に） ○学校生活（各教科・領域）における言語活動の充実のための工夫

(7) 研究計画

時 期	内 容	備 考
4月11日(金)	第1回研究推進委員会 6時間目	
4月16日(水)	第1回全体会 放課後 ・今年度の取り組みについて ・各部の計画について	
6月 8日(日)	唐津市教育の日 ・ふれあい道德	保護者・地域住民参加
6月23日(月)	第2回研究推進委員会 6時間目	
6月25日(水)	第2回全体会 放課後 ・1学期の取り組みについて(経過報告) ・各部から	
8月19日(火)	第3回研究推進委員会 14:00～	
8月26日(火)	第3回全体会 14:00～ ・1学期のふり返り ・2学期の計画	
10月14日(火)	第4回研究推進委員会 6時間目	
10月15日(水)	第4回全体会 放課後 ・2学期の取り組みについて(経過報告) ・各部から	
12月8日(月)	第5回研究推進委員会 6時間目	
12月10日(水)	第5回全体会 放課後 ・2学期のふり返り	
1月 9日(金)	第6回研究推進委員会 6時間目	
1月14日(水)	第6回全体会 放課後 ・3学期の計画 ・3学期の取り組みについて(経過報告)	
2月20日(金)	第7回研究推進委員会 6時間目	
2月25日(水)	第7回全体会 放課後 ・3学期のふり返り ・1年間の反省、来年度に向けて	
3月16日(月)	第8回研究推進委員会 6時間目	